

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を(笑顔・愛情・尊敬)とし、常に勉強し知識を高め、入居者の人格や生き甲斐を尊重し、入居者が楽しく地域に密着した日常生活を送る事が出来ると言う理念を掲げており、その理念を作り上げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の玄関及び事務所内の目に付きやすい場所に掲示しており、毎日朝の朝礼時に「運営理念」を職員で唱和している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所の進入道路入口に「理念」を記した看板を掲げて地域住民の皆様に理解して貰える様にしている。御家族様には玄関の目に付きやすい場所に記し、理解を促している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者様との散歩時などに声を掛け合って頂いており、併せて見守り等もお願いしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り等を教えて貰って、出来るだけ参加させてもらっている。また、時折季節の果物や野菜を差し入れて貰い、日々の料理に活用させてもらっている。		将来的には地区の老人会などに入会させてもらい、地域連携を強めて行きたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護全般の相談・援助支援等を行って行きたいと考えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価・自己評価を通じ、改善点を具体的・明確にして行き、質の高い介護を利用者に提供して行きたい。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された貴重な意見は、会議などで発表・考慮し、日々のケアに生かせるように取り組んでいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町内事業所で構成するグループホーム協議会を通じ、意見交換や助言を頂いたり、介護保険関係法令の解釈や運営上の疑問があれば、その都度指示や助言を頂きサービスの向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修などで一部の職員は理解を持っているが、全職員に制度の理解は浸透していない。今後勉強会や研修等に参加させ、全職員に制度の周知を浸透させ、必要な時には説明が出来る体制を取って行きたい。		今後は有識者を招いたり、研修の機会があれば参加させて行きたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修などで学ぶ機会を得ている。身体拘束廃止マニュアルや認知症介護研修センター発行の冊子などを備え十分な注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やそのご家族の疑問や不安が残らないように十分説明を行い、そして理解していただいた上で契約を交わしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム事務所に「苦情相談窓口」を設置し、また玄関には意見箱を設置し、内外より自由な意見や苦情等を受け付けている。入居者が職員に対し、いつでも相談していただける関係の構築にも努めている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりや行事等のお知らせは、毎月発行する「ゆうげん荘だより」で、金銭管理については個別の出納帳を付け同じ封書で郵送している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や意見箱の設置を通じ、苦情や意見があった場合には全職員に報告し対応策を検討の上、ご家族に報告出来る体制は作っている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の運営を含めたすべての事項の全体会議を行い、職員全員が素直に意見が発せられる環境作りに努めている。会議における決定事項は迅速な対応に心がけ運営に反映している。また、必要があれば臨時会議等を招集し行っている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要時には、緊急会議を招集、協議・検討し入居者の不安や不自由のない勤務体制に努めている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間に管理者・職員交代があったが、引き継ぎ期間を設け利用者に不安感を与えないように配慮している。また、離職希望がある場合には、総合協議を行う場を設けるなど最善を尽くしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている	募集及採用に関しては、社会人としての人間性・福祉に対する仕事観、向上心等を重視しており、年齢や性別に左右されることはない。事実現在の年齢幅も広い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的開催している全体会議の中や申し送り等で利用者に対する人権の尊重、人権擁護を促している。また、今後勉強会や研修会を積極的に行いたい。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上が経営上・運営上最重要と運営者は考えており、介護という専門性に捕らわれず研修や講演会などに参加する機会を確保している。また、資格取得に対して出来るだけのバックアップ(テキスト購入補助等)をしている。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福智町内12のグループホームで構成し定期的に開催する協議会に職員も参加させ、相互訪問や電話などによる意見交換、情報交換を行い交流を深めている。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務表作成時に、休日や夜勤の希望を出来る限り聞き、働きやすい環境作りに努めている。有給休暇の活用も促している。また、話しやすい環境を作るため昼食後に「ミニミーティング」を開き、フリートークと言う設定で話し合える場を設けている。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の業務については、完全マニュアル化は避け、利用者が不自由ない限り個々の職員が能力を活かせる業務遂行を行っている。そして職員間に偏った負担が出ないように配慮している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人からの訴えや希望等には「傾聴」を心がけ、安心・納得して頂くことで相互の信頼関係を築けるように努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	少しでも多くのコミュニケーションを取るよう意識し、介護に関する事のみならず、お話をして頂けることであればどんなことに関しても相談・意見・支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、グループホームのみならず必要とされるインフォーマル・フォーマルサービスの提案や紹介も希望があれば行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入居をおこなってもらい、ホームの理念・目的や雰囲気を感じて貰い、共同生活を不安なく行うための説明に時間を掛けさせてもらっています。ご家族にはホームでの対応可能な範囲をきちんと説明し、安心して利用してもらえるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には「人生の先輩」という尊敬の念を抱いて支援に日々努めるようにしている。職員も分からないことがある時など利用者さんに聞く風景もよく見られる。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問や電話時などには、必ず用件だけではなく、利用者の近況報告・細かな喜怒哀楽に関しても報告している。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者が歩んで来られたこれまでの理解し、定期的な発刊物「ゆうげん荘だより」を疎遠になりがちなお家族様に郵送している。場合によっては職員直筆のお手紙等を添える場合もある。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方には、日々ホームへの連絡や訪問を勧めている。希望があれば馴染みの店等に行く支援もしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	テーブルの席や外出時の車の座席位置、利用者同士の関係を強く配慮した上で行っている。より良き関係の副産物としてお互いを心配されたり助け合ったりの場面も見られる。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や他の施設転居により退去された方などからも気軽に相談を受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人との日々の対話やコミュニケーション、ご家族との交流の中でも十分に希望や意向等を把握し要望に沿えるように努めている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に十分なアセスメントを行い、入居後も毎日の生活支援の中から情報の増幅に努めている。職員間の情報交換や情報の共有にも気遣っています。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>リアルタイムでの状態把握、それを全職員の共有情報とすることに努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成にあたり、本人の意向を確認する。本人の意向把握が困難な場合は、ご家族から情報を聞き、日常の会話や行動から本人の思いをくみ取り、要望に沿えるように検討し作成している。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の日々の変化や状態に十分配慮しながら、新たなニーズをくみ取り、必要に応じて介護計画の見直しや変更を行っている。</p>	
40	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録である介護記録や業務日誌、申し送りノート、多種のチェック用紙を参考に職員の全体会議を開催、意見交換・情報交換を密にし情報の共有化を行い、それらから介護計画の見直しに着手している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師を配置、利用者の健康管理や医療機関との連携を強化している。他事業者と合同で行事を行い交流を図っている。通院介助や理容への外出支援等、臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	軽体操やエステ等、地域のボランティアの協力により、定期的な訪問がある。消防署や社会福祉協議会、地域包括支援センター等から助言を頂いている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前の居宅ケアマネやサービス事業所とはその後も接点を持ち、必要があれば連絡や意見交換を行っている。他のサービスとして訪問歯科の支援を行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、利用者からの意向や必要性はないが、今後必要とあらば協働の体制を取りたい。		権利擁護や長期的ケアの方向性・取り組み等については今後協働の体制を取りたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診・相談を看護師が中心となり、職員と協力して行っている。新たな受診が必要になった場合は、利用者やその家族の希望を最優先して調整している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者はそのかかりつけ医が専門医と言うこともあり、受診時には看護師や職員が同行し近況報告や相談を行っている。必要時には電話による助言も行っている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	正看護師を配置し、利用者の日常の健康管理の援助を職員と行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、ケアプランやアセスメントシート、通院・薬の記録などを医療ソーシャルワーカーもしくは看護師に提出している。入院中は定期的にお見舞いに行き、担当医やソーシャルワーカーとの情報交換を密にしている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、重度化した場合や終末期の在り方などについては職員間での話はしているが、利用者やその家族・医師等との具体的な話し合いは行っていない。		重度化や終末期の在り方については職員の知識や認識を高めたい。また、関係者との話し合いを設け、方針の共有化を行っていきたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期支援に関しては全職員統一しての重要項目と考えており、関係者との連携を図りチームとしての支援に取り組みたい。		内部研修等で今後備え、医療機関や家族との連携を図りチームとしての支援体制作りに努めたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な話し合いで作成したアセスメントを元に、安心して住み替えが行えるように支援している。その後も聞き取りや相談を行っている。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入室前には必ずノックと声かけを徹底しており、援助時にも自尊心やプライド・羞恥心に配慮している。個人情報の取り扱いも入社時に誓約書を交わして、必要時には注意を促している。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の思いや希望が自分から湧くような援助を心がけている。意思決定を第一にその思いを尊重して実行している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一連の作業的な流れではなく、一人ひとりのスタイルを尊重し、趣味や散歩・買い物等の希望を叶え、その人らしい生活が送れるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人希望の店に連れて行き、その日の衣服も本人の意思を最優先している。状況に応じた身だしなみが行えるようにも支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望に沿うような食事が提供できるように配慮している。食事の準備(下ごしらえや食器並べ)下膳や食器洗いは数名の利用者が職員と協力して毎食行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の疾病・健康状態に配慮して嗜好を取り入れている。食事以外の水分補給には、お茶、スポーツドリンク、コーヒー牛乳とそれぞれ個人の好みのものを飲んでいる。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンを把握し、気持ちよく自身で排泄出来るよう心がけている。特にプライバシーや羞恥心には注意を払って援助している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の体調や気分に合わせて配慮しながら気持ちよく入浴して頂けるようにしている。希望に応じて手助けを行いながら援助している。入浴中に関してはプライバシーには十分注意している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	習慣やその日の体調に留意し、安心安楽に休息して頂けるようにしている。不安を訴える場合には言語的・非言語的コミュニケーション等を使い、安心して休息して頂けるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人一人の生活歴や持っている力を活かせるような役割や趣味を取り入れた支援を行っている。たとえば調理歴のある人には食事の献立のそうだんをしたり、お手伝いをして頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理可能な利用者さんには、ご自身で管理して頂き、困難な場合にはご家族様と相談・了解の上ホームで管理している。ご家族様には領収書等を添付し収支報告を行っている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添って、散歩やドライブ、買い物等の外出支援を行っている。散歩に出かける場合には、気分良く出掛けられる様に何気ない見守りや声かけに努めている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出支援をレクに取り入れて、季節ごとに楽しめる支援を行っている。利用者の中には、ご家族と頻繁に外出する方もいる。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられる様に共用空間に設置している。また、ご家族の誕生日等には声をかけて電話等を促している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂けるよう、通信物や訪問時の言葉かけには十分な配慮をしている。日中夜間を問わず、開放的な対応を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員により、理解や知識度合いの違いはあるが、ホームでは身体拘束マニュアルを設置し、日々の業務の中で正しい理解の周知を行っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠しない事の重要性を職員一同強く認識し、日中はいかなる場合も無施錠を開設当時から続けている。開放的な空間作りに努めています。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員一同必ずノックや声かけを行ってからその所在確認を行っている。個々の状況や状態に合わせたプライバシーの配慮に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は、一律になくすのではなく、利用者の馴染みの物品や希望の品々は置くように指示している。それに係わる個々のリスクは十分に配慮している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状態や状況は利用者個人個人に合わせて配慮している。もしもの事故時には全員で話し合いを持ち、事故防止に努めている。リスクマネジメントについては、会議や勉強会を開いて周知させている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当における初期対応の周知は、会議やミーティングにおいて繰り返し行っている。また、各対応マニュアルを揃え、職員に啓発を促している。		将来は、AED等を設置し、全職員が使えるように指導して行きたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で避難訓練を実施し、各マニュアルの再確認を職員一同実施した。その時の指導を元に、防火設備の見直しを行った。また、当防火管理者が、田川消防署主催の「甲種 防火管理者」の資格を取り指導に勤しんでいる。		近隣住民の協力を得て、夜間想定避難訓練の実施。ホームの利点を生かして、災害時の飲料水や非常食の備蓄も検討して行きたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族には、十分な情報交換やコミュニケーションに努め、リスクについても説明を行っている。特に変化が予想される利用者については、ご家族と密に連絡を取り合い、リスクを未然に回避できるように努めている。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックを行い、職員同士が利用者情報を共有している。急変や異変があれば、直ちに主治医やかかりつけの病院へ連絡し、指示あれば受診を行う。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診記録や服薬管理票を所定の位置に常備し、申し送り時に報告を流し情報を共有化している。薬の種類増減には、説明書の確認を徹底し、薬によっては家族にも報告している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操を実施、体調不調者以外はほぼ全員出席率を誇る。水分補給にも心がけ、適時適量接種頂けるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの大切さを説明し、毎食後の歯磨き誘導を行っている。定期的な訪問歯科医師による、専門的な口腔ケアも合わせて行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録用紙に各利用者の食事量や水分摂取量等の記録を行い、介護員の報告や話し合いを通じ、一人一人に合わせた量や形状を考慮した支援を行っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し、日頃より感染症に対する学習を行い、危機感を持ちながら業務にあたっている。流行性の感冒には細心の注意を払い、予防に努めている。インフルエンザに関しては全員予防接種を実行している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の消毒チェック表を独自に作成する。特に感染しやすい手の消毒を徹底している。集2回の買い出しを行い、新鮮な食材を提供できるように努めている。		
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、季節を感じられる様な草花の花壇を設置、玄関には生け花のレイアウトを行って、安心できるホーム作りに努めている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、生け花や絵画、季節や時節が分かるようなカレンダーを用い、各利用者のテーブルには月々の行事や催事記、記念日を記したランチョンマットを敷いている。ホーム内は木目を基調としており、リビング兼食堂は吹き抜けて天井も高く開放的な空間である。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数か所にソファを設置し、自由に利用が出来るようになっている。そこでは気のあった者同士でのおしゃべりに花が咲いている。特にテレビ前のソファでは楽しみな番組に講じている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の話し合いで、使い慣れた家具や道具、家族の写真等を持ち込んでもらえるようお願いしている。部屋のレイアウトも本人や家族の意向を優先して行ってもらっている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候や気温に注意しながら、換気や温度調整は頻繁に行っている。温度計や湿度計を設置し、快適な環境提供に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーで全室床暖房の設備。導線に添った手すりにて、歩行訓練や移動が安心して出来るようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレやお風呂には、入居者が分かりやすい表示を掲げている。各居室には手作りの表札や気に入った暖簾を下げたりし、混乱を防ぐ環境作りを行っている。		
89	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地が広く、自然が多い環境なので、ホームの外周を散歩コースとしている。ところどころにい長椅子を置き、休憩しながら散歩が楽しめる工夫もしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居しているすべての方が、いきいきと安心して暮らして行けるように、職員全員が入居者の小さな変化を気付き、声掛け等を通じて対応力を日々磨いて行っています。時節の行事を取り入れて、入居者に季節感を感じる援助を行っています。又、病院受診以外にも外出の機会を増やし、買物のお手伝いや合同で行事を企画し、日々の生活の中に刺激を持っていただけるように心掛けています。